

英語助手に住居トラブル

指定アパート「施錠できない・カビ・悪臭…」

大阪府高槻市が、オーストラリアの姉妹都市から受け入れている英語指導助手（AET）とトラブルになっている。AETが「玄関の鍵が閉まらない」「トイレの水が漏れてくる」などと訴えて指定のアパートから転居。それを発端に、長年続いたAET受け入れが中止される事態になっている。

高槻市、受け入れ中止に

高槻市などによると、同市は1994年から毎年、「国際交流員」として姉妹都市のトゥーロンバ市からAETを受け入れてきた。のべで約70人。今年度も22～40歳の男女8人が市内の41小学校を回り、英語の授業をサポートしている。

AETは、ト市と交わす合意書の中で、高槻市中心部にあるアパート3カ所への入居が指定されている。アパートはいずれも築30～40年。2LDKで家賃は月6万円。敷金・礼金はかかるらない。昨年4月に着任した8人もこのアパートに入居したが、うち6人が5月に別のアパートに引っ越した。AET側は昨年7月、市側に住環境の改善などを求める要望書を提出。玄関の鍵やトイレ問題のほか、「カビがひどい」「流しから悪臭がする」などの不具合が絶えなかったと主張。「安全や衛生

面で不安が大きく、地震に耐えられるかも心配」として、家主に補修を求めたが「一向に改善されなかった」と訴える。このアパートの家主は元市教委職員の男性（66）やその親族。高槻市などによると、元々はト市側が「全員が地域のサポートを常に受けられる場所にまとまって住ませたい」と希望。高槻市などの協力を得て家主を探し、依頼したという。修繕などは家主が自費で行ってきた。

トラブルを受け、両市はAET受け入れを新年度から中止することを決め、昨年10月にAET側に通告。現在、AET側は地元労働組合を通じて、AET制度の継続などを求めている。高槻市は「AETは、ト市と交わす合意書の中で、高槻市中心部にあるアパート3カ所への入居が指定されている。アパートはいずれも築30～40年。2LDKで家賃は月6万円。敷金・礼金はかかるらない。昨年4月に着任した8人もこのアパートに入居したが、うち6人が5月に別のアパートに引っ越した。AET側は昨年7月、市側に住環境の改善などを求める要望書を提出。玄関の鍵やトイレ問題のほか、「カビがひどい」「流しから悪臭がする」などの不具合が絶えなかったと主張。「安全や衛生

教委と団体交渉している。

AETの研修などを1年間担う市教育センターのデイビッド・ローゼンフェルドさん（49）によると、これまでも、体調を崩

市「無断で転居した」

高槻市の担当者は取材に対して、「AETが無断で転居したことに大家らが怒り、地域の協力を得るのが難しくなった。すぐに新たな住居を探すのも困難」と説明。家主の男性は「改修の要望に応じなかったことはない。工事が遅れた部分はあったが、修繕は続いていた。事前

に相談もなく出て行くのは非常に問題だ」と話した。文部科学省などは、AETなどの外国語指導助手（ALT）を段階的に増員し、2019年度までに全公立小学校に配置できる体制を目指している。市教委は新年度中から、英語教育を事業とする企業などからネイティブスピーカーを派遣してもらう方向で調整している。

デイビッドさんは「彼らの待遇はあまりにひどい。AETは子どもたちからの評判もよかった。改善して継続する方法を探るべきだ」。自らも3月末での契約終了を告げられている。

高槻市は「課題が次々と出てきた。社会状況の変化も勘案し、制度を休止して見直し、新たな形で交流を続けたい」としている。（大部俊哉）



①はずれた収納のドア②さびや傷みが目立つ浴室。いずれもAETのメンバーが撮影した。昨年5月、大阪府高槻市春日町